

介護福祉学科

1 年

授 業 科 目	人 間 の 尊 厳 と 自 立			担 当 者	藤 原 久 礼		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (1)

授業の目的・内容

「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。

到達目標

- ・①人間の尊厳と自立、②介護における尊厳の保持・自立支援を理解できる。また、社会福祉分野固有の人間の捉え方や支援の考え方を理解することができる。さらに、介護福祉士として利用者支援を行う際の基盤となる社会福祉概念を理解し、今後の介護福祉支援に活かすことができる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション
2. 人間の尊厳の保持への支援（概要）
3. 生命の尊厳、神聖性（SOL）
4. 人間の尊厳
5. 倫理原則と徳の倫理
6. 基本的人権と人権の尊重
7. 人間の尊厳と「自律」・「自立」
8. 生活の質（QOL）
9. パーソンセンタードケア
10. 人間の変化の可能性の尊重
11. エンパワメントとストレングス
12. ソーシャル・インクルージョン
13. 権利擁護・アドボカシー
14. 国際生活機能分類（ICF）、自立支援に向けて
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・自分の暮らしと、人権のかかわりや生活の質について考える。
- ・当たり前の生活とは何かについて、自分の生活の中で意識し考える。
- ・生命の尊厳、人間の尊厳、人間の成長・発達について意識をしながら日々の人間関係を築いていくよう努力をする。

評価の方法・基準

- ・授業への参加態度(10%)、レポート等提出物(20%)、試験(70%)などによる総合評価

教科書

- ・授業で適宜プリントを配布する。

備考

福祉現場で相談援助職に従事した経験を持つ教職員が、福祉の人の見方から人間の理解を解説する。

授業科目	チームマネジメント			担当者	吉岡 俊昭		実務経験
							○
履修方法	講義	期間	後期	学科・学年	介護1年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

介護福祉職のグループの中で中核的な役割やリーダーの下で専門職として役割を発揮するための視点を養い、行動できる力を身につける。

到達目標

- ・チームで働くために必要なリーダー・フォロワーの役割と留意点を学び、自分で考え行動する力を身につけることができる。
- ・自分のビジョン、思いや考えを明確にし、言葉にして伝えることができる。

授業計画

【後期】

1. オリエンテーション
2. 自己分析 (クラスの一員として自分には何ができて、何が課題なのか)
3. 他者分析 (仲間の何を知っているのか)
4. チームワークトレーニング① (チームの一員としての役割)
5. " ② (成果とチームワークの関係)
6. プレゼンテーション① (伝える内容と話しの組み立て方)
7. " ② (伝え方の技法)
8. リーダーシップとは (リーダーに求められる知性と感性)
9. フォロアーシップとは (フォロアーに求められる支える力)
10. チームビジョンの構築方法と目標達成方法
11. 介護実践におけるリーダーシップとフォロアーシップの必要性
12. ゲストリーダー①
13. " ②
14. 1年間を振り返ったプレゼンテーション大会①
15. " ②

事前・事後学習の内容

- ・授業で学んだことを日々の生活 (学校生活や行事等) で実践し、できたこと、できなかったことを日々振り返る。

評価の方法・基準

- ・実技試験 (90%)、授業態度 (10%)

教科書

- ・必要資料は適宜配付する。

備考

職能団体等をリーダーとして引っ張る経験を持つ教員が、在学中、または現場に出て必要なチームマネジメントを解説する。

授 業 科 目	社会貢献活動Ⅰ			担 当 者	吉岡 俊昭 寺藤 美喜子		実務経験
履 修 方 法	実 習	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数 (単位数)	90 (2)

授業の目的・内容

養成校の近隣地域や福祉施設での貢献活動を通して、対象者の生活の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。

到達目標

- ・リーダーシップとフォロワーシップを実践的に学び、チームをマネジメントする力が持てる。
- ・対象者の生活を支えるための実践力を身につける。
- ・対象者が住み慣れた地域での生活を継続するための制度や施策について学ぶことができる。

授業計画

【前期】

1. 目的理解
2. 導入講座
3. グループでの活動検討
4. 貢献活動①
5. " ②
6. " ③
7. " ④
8. " ⑤
9. 中間振り返り
10. 貢献活動⑥
11. " ⑦
12. " ⑧
13. " ⑨
14. " ⑩
15. 振り返り

【後期】

16. 貢献活動⑪
17. " ⑫
18. " ⑬
19. " ⑭
20. " ⑮
21. 中間振り返り
22. 貢献活動⑯
23. " ⑰
24. " ⑱
25. " ⑲
26. " ⑳
27. 活動報告会準備①
28. " ②
29. " ③
30. 活動報告会

事前・事後学習の内容

- ・活動前に必ず活動内容、役割分担を理解しておくこと。

評価の方法・基準

- ・活動への出席状況、取り組み態度

教科書

- ・なし

備考

授業科目	生活支援技術 I			担当者	豊田 美絵		実務経験
							○
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	介護1年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解し、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得する。また住まいの多様性を理解するとともに、居住環境の整備について基礎的な知識を習得する。

到達目標

- ・住まいの多様性や居住環境の整備の必要性を理解できる。
- ・対象者の状態にあわせた福祉用具の選択・活用の知識・技術を習得できる。

授業計画

【前期】

1. 生活支援の基本的な考え方
2. 介護保険制度と障害者総合支援法について
3. 生活支援と ICF の視点
4. 住まいの役割と機能
5. 加齢と生活空間
6. 快適な室内環境
7. 安全に暮らすための生活環境
8. 高齢者・障がい者の住まい
9. 生活支援における福祉用具の重要性
10. 福祉用具の種類
11. // の実際
12. // の管理とリスクマネジメント
13. 介護ロボットの開発・活用にみるこれからの福祉用具の可能性
14. 生活支援と多職種連携(チームアプローチ)
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業終了時、プリントや資料（授業で使用したもの）をきちんとファイリングし復習する。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(60%)、出席状況、授業時の態度、グループワーク等の取り組み、課題の提出等(40%)について評価する。

教科書

- ・『生活支援技術 I』（中央法規出版）
- ・必要資料は適宜配布する。

備考

介護施設で介護職に従事した経験を持つ教員が、福祉用具の知識や活用方法、居住環境等について解説する。

授業科目	生活支援技術Ⅱ			担当者	齋木 亜子		実務経験
履修方法	演習	期間	通年	学科・学年	介護1年	時間数 (単位数)	120 (4)

授業の目的・内容

介護福祉士として自立に向けた生活支援（家事支援）をするうえでの必要な知識と技術を習得する。

到達目標

- ・食に関する基本的な知識と技術を身につけ、利用者の家事支援ができる。
- ・衣に関する基本的な知識と技術を身につけ、利用者の家事支援ができる。
- ・住に関する基本的な知識と技術を身につけ、利用者の家事支援ができる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション：おかゆとおもゆ
2. 五大栄養素：食材の切り方
3. 献立のたて方：だしのとりかた（汁物）
4. 食中毒予防：炒め物の基本
5. 高齢者の栄養①：煮物の基本
6. " ②：和え物と蒸し物の基本
7. " ③：焼き物の基本
8. 在宅における調理支援
9. 行事食について：七夕
10. 疾患と食事：カルシウムを補う食事
11. 寒天とゼラチン：嚥下機能と寄せ物の濃度
12. 電子レンジの利用①：ホームフリージング①
13. " ②： " ②
14. とろみについて：嚥下機能ととろみの濃度
15. 白玉粉と上新粉：肉をやわらかくする工夫

【後期】

16. 被服の素材：吸水実験&燃焼実験
17. 被服の裁縫：雑巾作り
18. ボタン付け、ゴムとおし：作品制作①
19. まつり縫い：作品制作②
20. 洗濯について：洗剤の実験
21. 漂白剤、防虫剤、しみぬき：しみぬき実験
22. 洗濯物の取り扱い：アイロンかけ
23. お手玉作成①
24. " ②
25. " ③
26. 悪質商法：消費者保護について
27. 指先を使う作品
28. 国試対策
29. 掃除の基本：大掃除
30. まとめ：多職種との連携

事前・事後学習の内容

- ・事前に授業範囲の教科書を読んでおく。
- ・日々の生活の中で、学んだ家事技術を実践し、身につける。

評価の方法・基準

- ・筆記試験（50%）、演習レポート（50%）

教科書

- ・『生活支援技術Ⅰ』（中央法規出版）

備考

授業科目	介護過程 I			担当者	豊田 美絵		実務経験
							○
履修方法	演習	期間	通年	学科・学年	介護1年	時間数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程の仕組みや目的を理解し、基本的な展開方法を習得する。

尊厳の保持や自立支援の視点から個別のニーズに対応できる展開の方法を理解し、実践的な展開を行なうための基礎知識を身につける。

到達目標

- ・介護過程の意義と目的が理解できる。
- ・基本的な展開方法を理解できる。
- ・個々の利用者を知り、根拠に基づいた生活課題を導き出すことができる。

授業計画

【前期】

1. 生活を支える介護の仕事とは
2. 根拠のある介護とは
3. 介護過程とケアプラン
4. " と ICF
5. " の全体像
6. " の意義と目的
7. " の展開
8. アセスメントとは
9. 情報収集の実際
10. 情報の解釈・関連づけ・統合化とは
11. " の演習
12. " の検討
13. 生活課題の明確化とは
14. " の実際
15. まとめ

【後期】

16. アセスメントについて（前期の復習）
17. 事例に基づく情報収集の実際
18. 事例に基づく情報の解釈・関連づけ・統合化
19. 情報の解釈・関連づけ・統合化の検討
20. 介護計画の立案とは
21. 介護計画における目標とは
22. 具体的な支援内容と支援方法について
23. 介護実習における介護計画の実際①
24. " ②
25. 実施について
26. 実施における留意点と記録について
27. 評価について
28. 評価における留意点と修正や記録について
29. 再アセスメントと介護計画
30. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業終了後、配布したプリントや資料をファイリングし復習する。授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(60%)、出席状況、授業時の態度、グループワーク等の取り組み、課題の提出等(40%)について評価する。

教科書

- ・『介護過程』（中央法規出版）
- ・必要資料は適宜配布する。

備考

介護施設で介護職に従事した経験を持つ教員が、介護過程の仕組みや目的等、基本的な展開方法を解説する。

授業科目	介護過程Ⅱ-①			担当者	寺藤 美喜子		実務経験
							○
履修方法	演習	期 間	後期	学科・学年	介護1年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開するうえで、最も重要となる情報収集が適切に行える能力を養う。

到達目標

- ・利用者の生活状況や思いを把握する視点を持つことができる。
- ・把握した情報を適切に言語化できる。

授業計画

【後期】

1. オリエンテーション
2. 介護過程の意義、目的
3. 情報収集の目的、アセスメントの実際
4. 情報収集の方法
5. 利用者の「している活動」「できる活動」「本人の思い」
6. 情報収集の実際 事例 (身体機能、コミュニケーション)
7. " (起居、移乗、移動動作)
8. " (排泄)
9. " (清潔、更衣、整容)
10. " (レクリエーション、余暇活動、人間関係)
11. " (医療情報)
12. " (フェイスシートの記入)
13. " まとめ
14. 介護実習Ⅱ-①に向けて「アセスメント」の実際①
15. " ②

事前・事後学習の内容

- ・復習を行うこと。評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

- ・提出物 (90%)、授業態度 (10%)

教科書

- ・『介護過程』(中央法規出版)
- ・必要資料は適宜配布する。

備考

介護施設で介護職・介護支援専門員に従事した経験を持つ教員が、利用者の情報収集の方法について解説する。

授 業 科 目	介護総合演習Ⅱ-①			担 当 者	寺藤 美喜子		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

実習モデルに基づきながら実習Ⅱの目的と目標について学ぶ

演習課題に取り組み、介護過程を中心とした、実習Ⅱ-①に必要な知識・技術、他職種連携の視点を学ぶ。

到達目標

- ・介護実習Ⅱに必要な知識や技術を身に付けることができる。
- ・介護実習を始めるための諸手続きが行える。

授業計画

【後期】

1. 実習Ⅰの振り返り
2. 実習Ⅱのならいと実習モデル
3. 障害者支援施設、重症心身障害者施設とは
4. 実習施設を調べる
5. 実習を始めるまでの手続き①
6. " ②
7. 自己紹介新聞作成①
8. " ②
9. 実習目標について
10. 生活支援技術を軸にした介護実習「実習日誌」①
11. " ②
12. " ③
13. 実習前指導、実習前の諸注意、書類の確認
14. 実習後指導
15. 実習報告会

事前・事後学習の内容

- ・復習を行うこと、評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

- ・提出物 (90%)、授業態度 (10%)

教科書

- ・必要書類は適宜配布する。

備考

介護施設で介護福祉士実習指導者に従事した経験を持つ教員が、実習Ⅱに必要な知識や技術を解説する。

授 業 科 目	介護実習 I			担 当 者	吉岡 俊昭		実務経験
履 修 方 法	実習	期 間	前期	学科・学年	介護1年	時 間 数 (単位数)	90 (2)

授業の目的・内容

12日(90時間)の介護現場での実習を行う。比較的元気な高齢者とのコミュニケーションを図り、関わることにより、高齢者の生活の様子や興味・関心を理解する。また、高齢者が生きてきた時代を理解することを通して、高齢者の生活を多面的に理解し利用者援助に役立てる。さらに、介護職員からの指導を受けながら介護業務に関わることで、介護福祉士としての基礎作りを行い、今後の学習に生かす。

到達目標

- ・言語的コミュニケーションが比較的可能な利用者との人間的なふれあいを通して、利用者の特性を理解する。
- ・利用者の日常生活を知り、介護の機能ならびに施設職員の一般的役割について理解する。
- ・初歩的な日常生活援助ができる。

授業計画

【前期】

12日間(90時間)の介護実習を行う。12日間を通して具体的に学習する内容は下記の通りである。

- (1) 実習施設の概要を理解する。
- (2) 職員の構成と職務内容を理解する。
- (3) 利用者の日常生活を理解する。
- (4) 介護職の役割を理解する。
- (5) 基本的な日常生活援助を理解する。
- (6) 利用者とのコミュニケーション技術を学ぶ。
- (7) 指導者の監督・指導のもとで、日課にそって日常生活援助の仕方を学ぶ。

事前・事後学習の内容

事前学習として

- ・高齢者の身体的、心理的な特徴
- ・高齢者のコミュニケーションの特性
- ・配属された実習施設の理解を図る。
- ・利用者が生きてきた時代背景 など充実した介護実習が行なえるようにする。

事後学習として

- ・実習日誌による振り返りや指導を受け、介護職員として必要な視点を養う。また、実習中の中間・最終の振り返りによって、実習を振り返り、今後の学内での学習や次回の実習での課題を明らかにする。

評価の方法・基準

- ・①実習前の提出物(20%)、②実習日誌(20%)、③実習に対する姿勢(20%)、④実習での学び(20%)、⑤実習指導者による実習評価(20%)を本校で総合的に評価する。

教科書

- ・2021年度介護実習要綱

備考

授 業 科 目	介護実習Ⅱ-①			担 当 者	吉岡 俊昭		実務経験
履 修 方 法	実習	期 間	後期	学科・学年	介護1年	時 間 数 (単位数)	160 (4)

授業の目的・内容

12日間(90時間)の介護実習を2回行う。

生活支援技術が必要な高齢者や障がい者が生活している施設での実習を通して、介護支援が必要な利用者の身体・生活状況を理解し、利用者を支援する生活支援技術を学び実施する。

利用者の個性を理解しながら、自ら考察しながら根拠に基づいた介護実践できる基礎力を身に付ける。

対象利用者を決め、心理・精神・身体・社会・生活面など多面的に利用者の情報を収集し整理し、ICFの考え方に基づいた介護過程の第1段階を身に付ける。

到達目標

- ・利用者の障害レベルに応じて求められる生活支援技術が実践できる。
- ・利用者のニーズを充足するための情報の収集ができる。
- ・医療・看護との連携の方法について学ぶ。
- ・利用者の状態について観察し、正しく記録できる。

授業計画

【後期】

12日間(90時間)の実習内容は下記の通りであり、前半・後半2回の介護実習を行う。

- (1) 実習施設の概要を理解する。
- (2) 職員の構成と職務内容を理解する。
- (3) 利用者の日常生活を理解する。
- (4) 介護職の役割を理解する。
- (5) 基本的な日常生活援助を理解する。
- (6) 利用者とのコミュニケーション技術を学ぶ。
- (7) 指導者の監督・指導のもとで、日課にそって日常生活援助の仕方を学ぶ。
- (8) 職務内容および職員間のチームワークのあり方を学ぶ。
- (9) 健康管理援助(予防的介護)の仕方を学ぶ。
- (10) レクリエーションを企画し、実践する。
- (11) 指導者の監督・指導のもとに、1名の利用者を受け持ち、個別援助計画を立案するための情報収集を行う。

事前・事後学習の内容

事前学習として

- ・ICFの視点に基づいた介護過程の段階と情報収集の意味を理解する。
- ・生活支援が必要な利用者の心理・精神的・身体的な特徴と、疾病や障がいについて理解する。
- ・配属された実習施設の理解を図る。
- ・レクリエーションの計画作成と展開方法を学習する。

事後学習として

実習日誌による振り返りや指導を受け、介護職員として必要な視点を養う。また、実習中の中間・最終の振り返りによって、実習を振り返り、今後の学内での学習や次回の実習での課題を明らかにする。

評価の方法・基準

- ・①実習前の提出物(20%)、②実習日誌(20%)、③実習に対する姿勢(20%)、④実習での学び(20%)、⑤実習指導者による実習評価(20%)を本校で総合的に評価する。

教科書

- ・2021年度介護実習要綱

備考

授業科目	発達と老化の理解 I			担当者	藤井 玲子		実務経験
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	介護1年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

- 人間の成長と発達の観点から、人の一生についての知識を習得する。
ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援する為に必要な基礎知識を学習する。

到達目標

- ① 成長・発達の考え方、成長・発達の原則などの基礎知識が習得できる。
- ② ライフサイクル各期の身体的・心理的・社会的特徴と、各期に特徴的な疾病について会得する。
- ③ 老年期の特徴について理解することにより、介護実践に役立てることができる。

授業計画

【前期】

1. 人間の成長と発達の基礎知識 1) 成長・発達の概念
2. " 2) 成長・発達の原則
3. " 3) 成長・発達に影響する要因
4. 人間の発達段階と発達理論 1) 発達段階と発達理論
5. " 2) 発達課題
6. 人間の成長と発達 1) 胎生期、乳児期 ①身体的成長と発達②心理・社会的特徴③疾病・心理的問題
7. " 2) 幼児期 ① 身体的成長と発達 ②心理・社会的特徴 ③特徴的疾患・心理的問題
8. " 3) 学童期 ① 身体的成長と発達 ②心理・社会的特徴 ③特徴的疾患・心理的問題
9. " 4) 青年期、成人期 ① 特徴 ②特徴的疾患と心理的問題
10. " 5) 老年期 ① 加齢と身体変化 ② 特徴 ③ 特徴的疾患と心理的問題
11. 老年期の特徴と発達課題 1) 老年期定義 2) 老化学説 3) 発達課題
12. " 1) 老年観 2) 尊厳と老いの価値 3) 生きがい
13. " 1) 喪失体験 2) 死 3) セクシュアリティ
14. " 1) 老年期をめぐる今日的課題
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・板書したことはノートにとり、復習すること。
- ・ワークブックの過去問題はやってみること。

評価の方法・基準

- ・出席状況、授業態度(10%) 提出物(10%) 期末試験総合得点(80%)で評価

教科書

- ・『発達と老化の理解』（中央法規出版）、ワークブック I を使用。

備考

授業科目	発達と老化の理解Ⅱ			担当者	香川 満子		実務経験
							○
履修方法	講義	期間	後期	学科・学年	介護1年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

老化に伴う身体的・心理的・社会的変化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎知識を習得する。

到達目標

- ・老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化と、それらがどのように生活に影響を与えるかを理解できる。
- ・高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康を維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を習得できる。

授業計画

【後期】

1. 老化に伴う身体的な変化と生活への影響
2. 老化に伴う心理的な変化と生活への影響
3. //
4. 老化に伴う社会的な変化と生活への影響
5. 高齢者の健康、症状・疾患の特徴
6. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 骨格系・筋系
7. //
8. // 脳・神経系、皮膚・感覚系
9. // 循環器系
10. // 呼吸器系
11. // 消化器系、腎・泌尿器系
12. // 内分泌・代謝系
13. // 歯・口腔疾患、悪性新生物
14. // 感染症、精神疾患、その他
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・予習として、テキストの次回授業部分を読んでおく。
- ・重要点はテキストに印をつける、メモを取るなどして復習する。
- ・授業初めに前回の内容の設問を行うので復習しておく。

評価の方法・基準

- ・筆記試験 (90%)
- ・提出課題 (10%)

教科書

- ・『発達と老化の理解』（中央法規出版）

備考

看護業務に携わった経験を持つ教員が医学知識を活かして、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎知識を深めることができるよう講義をする。

授業科目	認知症の理解 I			担当者	長田 美紀		実務経験
履修方法	講義	期 間	後期	学科・学年	介護1年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

認知症に関する基礎的知識を取得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

到達目標

- ・認知症の定義を知り、認知症ケアのこれまでと認知症ケアの理念や視点、療法などについて説明できる。
- ・介護職として身につけておくべき認知症の医学的知識を学び、認知症の人の行動・心理について説明できる。

授業計画

【後期】

1. 認知症とは何か
2. 認知症ケアの歴史、認知症ケアの理念と視点
3. 脳のしくみ
4. 認知症の人の心理、中核症状、生活障害の理解
5. BPSD の理解
6. 中間まとめ①
7. 認知症の原因①
8. " ②
9. " ③
10. 認知症の診断と治療
11. 認知症の予防について
12. 障害をもつ高齢者の疑似体験と理解
13. 認知症の人の心理的理解
14. まとめ② 演習
15. 最終まとめ

事前・事後学習の内容

- ・テキストの次回授業範囲を読んでおくこと。
- ・前回授業のポイントを復習しておくこと。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(90%)、提出課題(10%)

教科書

- ・『認知症の理解』（中央法規出版）

備考

授業科目	障害の理解 I			担当者	金光 久美		実務経験
							○
履修方法	講義	期 間	前期	学科・学年	介護1年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を理解し、本人や家族も含めた介護上の留意点について学習する。また、介護現場で重要となる自立に向けた生活支援ができるよう、生活に視点を置いた基本的な支援方法について学ぶ。

到達目標

- ・障害の原因や代表的な障害の病態について説明できる。
- ・障害がもたらす日常生活への影響について説明できる。
- ・障害がもたらす心理面への影響について説明できる。
- ・自立に向けた支援方法について説明できる。

授業計画

【前期】

1. 視覚障害のある人の医学的・心理的・生活の理解と介護上の留意点
2. 聴覚・言語障害、重複障害 //
3. 運動機能障害 //
4. 知的障害、発達障害 //
5. 精神障害 //
6. 高次脳機能障害 //
7. 重症心身障害 //
8. 心臓機能障害 //
9. 腎機能障害 //
10. 呼吸機能障害 //
11. 膀胱・直腸機能障害 //
12. 免疫機能障害 //
13. 肝臓機能障害 //
14. 難病 //
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業終了時に示す課題について、次回授業開始時に答え合わせをしていく。

評価の方法・基準

- ・学期末テスト(80%)、レポート(20%)

教科書

- ・『障害の理解』(中央法規出版)

備考

医療機関で看護師として従事した経験を持つ教員が、障害に関する医学的知識、心理的・生活の理解、介護上の留意点について解説する。

授 業 科 目	障 害 の 理 解 Ⅱ			担 当 者	金 光 久 美		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (1)

授業の目的・内容

障害の概念、障害者福祉の基本理念を学び、障害のある人がどのような介護技術を必要としているのかを学ぶ。また、家族支援のあり方や多職種との連携・協働について学習する。

到達目標

- ・ 障害者の法的定義について説明できる。
- ・ 障害のある人に対する介護の基本的視点について説明できる。(自己決定、エンパワメント、権利擁護)
- ・ 障害のある人の社会資源の活用方法について説明できる。
- ・ 家族支援のあり方について説明できる。
- ・ 介護福祉士以外の保健医療福祉職種との連携について説明できる。

授業計画

【後期】

1. 障害のある人の暮らし 成年後見制度
2. わが国における障害者の法的定義
3. リハビリテーションの意味と理念、目的
4. 障害のある人の自己決定
5. エンパワメント
6. 権利擁護
7. 社会資源の利用と開発①
8. " ②
9. 福祉機器
10. 居宅支援と自立
11. 家族支援の視点
12. 家族の状態の把握と介護負担の軽減
13. 多職種との連携
14. 地域におけるサポート体制
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・ 授業終了時に示す課題について、次回授業開始時に答え合わせをしていく。
- ・ 授業終了時に示す課題についてレポートを作成する。

評価の方法・基準

- ・ 学期末テスト(80%)、レポート(20%)

教科書

- ・ 『障害の理解』(中央法規出版)

備考

医療機関で看護師として従事した経験を持つ教員が、障害の概念、障害者福祉の基本理念、家族への支援のあり方について解説する。

授業科目	こころとからだのしくみI			担当者	金光 久美		実務経験
							○
履修方法	講義	期 間	後期	学科・学年	介護1年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

介護福祉士が支援していくうえで必要な利用者理解のための基本として、人のこころとからだのしくみについて学習する。

人の心理的側面のみならず、「死」についての考察を深め、死と直面する相手と向き合えるようになることを目指す。

到達目標

- ・脳のつくりと働きについて説明できる。
- ・こころと脳のつながりについて説明できる。
- ・高齢者の睡眠障害の特徴、支援方法について説明できる。
- ・終末期から危篤時、死亡時のからだの変化について説明できる。
- ・死生観について考えを深め、述べることができる。

授業計画

【後期】

1. 脳のつくりと働きの理解
2. こころと脳のつながり
3. 認知のしくみ
4. 人間の行動を引き起こすこころのしくみ
5. 社会的人間としてのこころのしくみ
6. 睡眠に関する基礎知識
7. 睡眠に関連したこころとからだのしくみ
8. 高齢者の睡眠障害
9. 「死」のとらえ方
10. 尊厳死
11. 終末期から危篤時・死亡時のからだの理解
12. 脳死について
13. 「死」に対するこころの理解
14. 医療職との連携
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業終了時に示す課題についてレポートする。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(80%)、レポート(10%)、授業参加状況(10%)

教科書

- ・『こころとからだのしくみ』（中央法規出版）

備考

医療機関で看護師として従事した経験を持つ教員が、人間の基本的なこころとからだのしくみについて解説する。

授 業 科 目	こころとからだのしくみⅡ			担 当 者	香川 満子		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人体の構造や機能を理解する学習とする。

到達目標

- ・こころとからだの関係について理解できる。
- ・脳や心臓など基本的な解剖や生理を理解できる。
- ・骨・関節など体の動きのメカニズムを理解できる。

授業計画

【前期】

1. 細胞・遺伝、身体各部の名称
2. 脳・神経
3. 感覚器
4. 呼吸器
5. 循環器
6. 消化器
7. 泌尿器
8. 骨・筋肉①
9. " ②
10. 神経系のはたらき
11. 生殖器・内分泌
12. 血液・体液・リンパ
13. ホメオスタシス
14. 薬の知識
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・テキストを熟読し理解を深める。
- ・重要点はテキストに印をつけたり、メモを取り復習に役立てる。
- ・授業初めに前回内容の設問をすることで復習をしておく。

評価の方法・基準

- ・筆記試験 (90%)
- ・提出課題 (10%)

教科書

- ・『こころとからだのしくみ』（中央法規出版）
- ・レジュメ

備考

看護業務に携わった経験を持つ教員が、医学知識を活かして、人の体の基本的な解剖と生理について理解を深めることができるよう講義をする。

授 業 科 目	医療的ケア I			担 当 者	金光 久美		実務経験 ○
履 修 方 法	講義	期 間	後期	学科・学年	介護1年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な、基礎的知識を習得する。

到達目標

- ・医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種の役割について述べられる。
- ・感染予防および健康状態の把握など医療的ケアを安全・適切に実施するうえでの内容が述べられる。
- ・健康状態をはかる指標としてのバイタルサインの見方、測定ができる。
- ・救急蘇生法が実践できる。

授業計画

【後期】

1. オリエンテーション、なぜ医療的ケアを学ぶのか
2. 医療の倫理
3. 個人の尊厳と自立、利用者や家族の気持ちの理解
4. 保健医療制度とチーム医療 ①
5. " ②
6. 安全な療養生活 ①
7. " ②
8. " ③
9. " ④
10. 感染予防と清潔保持 ①
11. " ②
12. 健康状態の把握 ①
13. " ②
14. " ③
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業終了時に示す課題について、次回授業開始時に答え合わせをしていく。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(100%)

教科書

- ・『医療的ケア』（中央法規出版）

備考

医療機関で看護師として従事した経験を持つ教員が、医療的ケア実施の基礎的知識について解説する。

授業科目	ITリテラシーI			担当者	椿 幸治		実務経験
履修方法	演習	期間	通年	学科・学年	介護1年	時間数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

現代社会で必要となるパソコン技術（タッチタイピングや文書作成）や情報社会を生き抜いていくために必要な情報モラルを学習する。また、パソコンやスマートフォンを用いた新聞作成や動画作成、テレビ会議などこれからの介護現場で求められる様々な要望に応えられるIT技術を身につける。

到達目標

- ① 情報社会に必要な情報モラルを理解する。
- ② 日本語ワープロ検定3級以上の資格あるいはパソコンスピード認定試験（日本語）4級以上の資格を習得する。
- ③ スマートフォンやインターネットを活用した自己紹介新聞や動画の作成。

授業計画

【前期】

1. 介護現場とIT
2. パソコンの基本的な使い方
3. タイピング練習、表及び文書作成
4. 文書デザインの基本、図形、画像の処理
5. 情報モラル
6. 自己紹介新聞作成 ①
7. " ②
8. プレゼンテーションソフトの基本的な使い方
9. プレゼンテーションソフトの演習①
10. " ②
11. 実習報告会資料作成①
12. " ②
13. " ③
14. データ通信の仕方
15. テレビ会議の仕方

【後期】

16. 日本語ワープロ検定試験3級の演習
17. 日本語ワープロ検定試験対策①
18. " ②
19. " ③
20. " ④
21. " ⑤
22. " ⑥
23. " ⑦
24. " ⑧
25. 実技試験（ワープロ検定試験）
26. 撮影方法と動画編集
27. 動画作成①
28. " ②
29. " ③
30. " ④

事前・事後学習の内容

- ① パソコンによるタイピング練習（日本語）を事前に行う。
- ② 与えられた課題を予習・復習する。

評価の方法・基準

・実技試験（40%）、作成物（60%）に提出物及び授業態度を加点して評価する。

教科書

・『イチからしっかり学ぶ！学生のための Office 基礎と情報モラル』（noa 出版）

備考

2 年

授業科目	社会の理解Ⅰ			担当者	藤原 久礼		実務経験
							○
履修方法	講義	期 間	前期	学科・学年	介護2年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりについて理解する。日本の社会保障の目的、基本的な考え方、しくみ、制度の概要について理解する。社会保険の目的、基本的な考え方、仕組み、制度について理解する。

到達目標

- ・私たちの生活と福祉との関係性が理解。
- ・戦後の家族形態・地域の移り変わりの原因や機能変化について理解し、社会福祉の必要性について理解。
- ・社会保障の概要・目的、社会扶助、社会保険、について理解。

授業計画

【前期】

1. 社会福祉の生活を見る視点 ①
2. " ② (国際生活分類を中心に)
3. 家族・世帯・親族 ①
4. " ②
5. 戦後日本の家族規模の変化と機能変化
6. 戦後日本の地域社会の変化と機能変化 ①
7. " ②
8. 戦後日本におけるライフスタイルの変化 ①
9. " ②
10. 社会保障の基本的な考え方
11. 社会保障の体系と社会保険 ①
12. " ②
13. " ③
14. " ④
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・現象として現れる生活問題の背景を理解するよう、社会科学的な視点を養い、根拠をもって思考する力を身に付けるよう努める。
- ・専門的な語句と意味について復習し理解を図る。

評価の方法・基準

- ・授業の取り組み(15%)、期末テスト(85%)による総合評価

教科書

- ・『介護福祉士実務者研修テキスト①』(中央法規出版)

備考

福祉現場で相談援助職に従事した経験を持つ教職員が、現代家族・地域社会の課題を概説し、社会保障について解説する。

授 業 科 目	社会の理解Ⅱ			担 当 者	藤原 久礼		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

- 社会保障（社会扶助）の基本的な考え方、しくみ、制度について理解する。
- 介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する。
- 介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する。

到達目標

- ・公的扶助の目的・原理・原則について理解できる。
- ・生活保護制度の概要について理解できる。
- ・社会手当について理解できる。
- ・介護保制度や障害者自立支援制度などの福祉法制度について理解できる。

授業計画

【後期】

1. 公的扶助 ①（公的扶助とは、生活保護の原理・原則）
2. " ②（生活保護の扶助の種類、生活保護施設）
3. " ③（生活保護の現状）
4. 社会手当
5. 財政と社会福祉
6. 社会福祉法人
7. 成年後見制度
8. 個人情報保護
9. 介護保険制度 ①
10. " ②
11. " ③
12. " ④
13. 障害者自立支援制度 ①
14. " ②
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・覚える内容が多いため、専門用語とその内容について必ず復習し理解する。
- ・法制度の大枠を理解し、それぞれの細かな制度や枠組みがイメージでき説明できるように努める。

評価の方法・基準

- ・授業への取り組み(15%)、期末テスト(85%)による総合評価

教科書

- ・『介護福祉士実務者研修テキスト①』（中央法規出版）

備考

介護現場で相談援助職に従事した経験を持つ教職員が、福祉制度について解説する。

授 業 科 目	社会貢献活動Ⅱ			担 当 者	吉岡 俊昭 寺藤 美喜子		実務経験
履 修 方 法	実 習	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単位数)	90 (2)

授業の目的・内容

養成校の近隣地域や福祉施設での貢献活動を通して、対象者の生活や地域の課題に対して介護福祉士としての役割を実践的に学ぶ。

到達目標

- ・リーダーシップとフォロワーシップを実践的に学び、チームをマネジメントする力が持てる。
- ・対象者の生活を支えるための実践力を身につける。
- ・対象者が住み慣れた地域での生活を継続するための制度や施策について学ぶことができる。

授業計画

【前期】

1. 目的理解
2. 導入講座
3. グループでの活動検討
4. 貢献活動①
5. " ②
6. " ③
7. " ④
8. " ⑤
9. 中間振り返り
10. 貢献活動⑥
11. " ⑦
12. " ⑧
13. " ⑨
14. " ⑩
15. 振り返り

【後期】

16. 貢献活動⑪
17. " ⑫
18. " ⑬
19. " ⑭
20. " ⑮
21. 中間振り返り
22. 貢献活動⑯
23. " ⑰
24. " ⑱
25. " ⑲
26. " ⑳
27. 活動報告会準備①
28. " ②
29. " ③
30. 活動報告会

事前・事後学習の内容

- ・活動前に必ず活動内容、役割分担を理解しておくこと

評価の方法・基準

- ・活動への出席状況、取り組み態度

教科書

- ・なし

備考

授業科目	介護の基本Ⅱ			担当者	豊田 美絵		実務経験
							○
履修方法	講義	期間	通年	学科・学年	介護2年	時間数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

専門職としての介護の成り立ちを学ぶことで、介護福祉士に求められる役割や機能を理解し、専門職として必要な知識や姿勢を習得する。また地域や災害時における介護福祉士の必要性について理解する。

到達目標

- ・介護福祉の基本理念である尊厳の保持や自立支援の考え方を理解できる。
- ・介護福祉士の役割や機能を説明できる。
- ・ICFの視点を理解し、介護予防の必要性を理解できる。
- ・災害時の支援における介護福祉士の必要性を説明できる。

授業計画

【前期】

1. 介護福祉とは
2. 介護福祉士の機能と役割
3. 地域包括ケアシステム・介護予防
4. 医療的ケア・人生の最終段階の支援
5. 災害時の支援
6. 社会福祉士及び介護福祉士法・
養成カリキュラムについて
7. 介護福祉士の倫理綱領
8. 日本介護福祉士倫理綱領とは
9. オリエンテーション&プロとは
10. リハビリテーションとその実際
11. ノーマライゼーションとICF
12. 介護現場での二次障害
13. 自立支援とリハビリテーションケア
14. リハビリ的立位と移乗
15. リハビリ的座位と姿勢管理

【後期】

16. リハビリ的起き上がり
17. 腰痛予防とスライディングボードでの移乗
18. 褥瘡ケアとベッド操作
19. 福祉用具でのベッド上移動
20. ポジショニング
21. 介護予防と福祉用具の活用
22. 人権擁護と虐待
23. リハビリテーションのための
目標志向アプローチ
24. 介護の成り立ち
25. 専門職による「介護」が誕生した社会的背景
26. 介護の概念の変遷 -1970年～1980年代-
27. " -1990年～2000年代-
28. " -2000年以降-
29. 介護福祉の基本理念
30. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業終了後、配布したプリントや資料をファイリングし復習する。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(60%)、出席状況、授業時の態度、グループワーク等の取り組み、課題の提出等(40%)について評価する。

教科書

- ・『介護の基本Ⅰ』（中央法規出版）
- ・必要資料は適宜配布する。

備考

介護施設で介護職に従事した経験を持つ教員が、社会における介護の必要性や介護福祉士の役割や機能について解説する。

授 業 科 目	生活支援技術Ⅳ			担 当 者	吉岡 俊昭 寺藤 美喜子		実務経験
							○
履 修 方 法	実 習	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単 位 数)	1 2 0 (3)

授業の目的・内容

尊厳保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立を尊重し、潜在能力を引き出すことや、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を身につける。

到達目標

- ・尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立を尊重し、潜在能力を引き出すことや、見守ることも含めた適切な介護が提供できるために必要な知識や技術を習得し、介護実践に活用できる。

授業計画

【前期】

1. 様々な障害者の生活と理解
2. 様々な障害者への支援と連携
3. 障害や状況に応じた移動・移乗の方法
4. " 福祉用具の活用
5. " 食事介助の方法①
6. " " ②
7. " 排泄介助の方法①
8. " " ②
9. " 入浴の方法①
10. 手浴と足浴介助の方法
11. 清拭と洗髪介助の方法
12. 障害や状況に応じたポジショニング
13. " シーティング
14. 福祉車両体験
15. 様々な福祉機器見学、体験

【後期】

16. 実習で行った介護技術の振り返り
17. 障害や状況に応じた衣類交換の方法①
18. " ②
19. 介護福祉職が行う医療的処置
20. 訪問入浴見学
21. ケアコンテスト見学
22. 緊急時の対応と感染予防
23. 終末期における介護の意義と目的（エンゼルケア）
24. 終末期におけるグリーフケア（入棺体験）
25. 事例への対応①
26. " ②
27. " ③
28. " ④
29. " ⑤
30. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・復習を行うこと。

評価の方法・基準

- ・試験(80%)、授業への参加度・発言の積極性(20%)

教科書

- ・『生活支援技術Ⅱ・Ⅲ』（中央法規出版）
- ・本人の視点に基づく介護技術ハンドブック
- ・必要資料は適宜配付する。

備考

介護施設で介護福祉職に従事した経験を持つ教員が、障害に応じ、利用者の潜在能力を引き出し、安全に援助できる技術を解説する。

授 業 科 目	介護過程Ⅱ-②			担 当 者	寺藤 美喜子		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

他の科目で習得した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。

到達目標

- ・実習Ⅱ-①で情報収集した利用者のアセスメントと計画の立案を行うことができる。
- ・実習Ⅱ-②で実施するカンファレンスを模擬的にを行い、根拠をもとに立案した個別援助計画の説明ができる。
- ・評価・修正の目的と方法を理解できる。

授業計画

【前期】

1. 介護過程の実戦的展開
2. 「アセスメント」の実際 「情報の解釈・関連づけ・統合化」 事例1 ①
3. " " " " " " ②
4. " " 「課題の明確化」 事例1
5. " " 「個別援助計画」の立案 事例1
6. カンファレンス①
7. " " ②
8. 「アセスメント」の実際 「情報の解釈・関連づけ・統合化」 事例2 ①
9. " " " " " " ②
10. " " 「課題の明確化」 事例2
11. " " 「個別援助計画」の立案 事例2
12. カンファレンス①
13. " " ②
14. 個別援助計画の修正
15. " " 評価

事前・事後学習の内容

- ・復習を行うこと。評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

- ・提出物(80%)、カンファレンス取り組み状況(20%)

教科書

- ・『介護過程』（中央法規出版）
- ・必要資料は適宜配付する。

備考

介護施設で介護職・介護支援専門員に従事した経験を持つ教員が、アセスメント方法から個別援助計画の立案・実施・評価について解説する。

授業科目	介護総合演習Ⅱ-②			担当者	寺藤 美喜子		実務経験
							○
履修方法	演習	期 間	前期	学科・学年	介護2年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

実習の教育効果をあげるため、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力などについて総合的な学習を行う。実習モデルに基づきながら実習Ⅱの目的と目標について学ぶ。演習課題に取り組み、介護過程を中心とした知識・技術、他職種協働の視点を学ぶ。

到達目標

- ・介護実習Ⅱ-①を振り返り、介護実習Ⅱ-②の課題が理解できる。
- ・介護実習に向けて、実習個人票や実習目標などの作成ができる。
- ・介護実習Ⅱ-②に向けて、より良い実習を目指した事前取組ができる。
- ・介護実習Ⅱ-②に必要な基本的な知識の整理ができ、資料作りができる。
- ・担当利用者のアセスメントと個別援助計画の作成ができる。
- ・実習報告会を通して、自分自身の今後の課題が理解できる。

授業計画

【前期】

1. 実習Ⅱ-①の振り返り
2. 介護実習Ⅱ-②について
3. 実習Ⅱ-②のねらいと実習モデル①
4. " ②
5. 介護技術を軸にした介護実習 「実習日誌」 ①
6. " ②
7. " ③
8. 実習前準備 「実習施設」
9. " 「個人表」
10. " 「個人目標」
11. 実習前指導
12. 実習中間指導①
13. " ②
14. 実習報告会①
15. " ②

事前・事後学習の内容

- ・復習を行うこと。評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

- ・提出物 (90%)、授業態度 (10%)

教科書

- ・プリント配布

備考

介護施設で介護福祉士実習指導者に従事した経験を持つ職員が、実習Ⅱに必要な知識や技術を解説する。

授 業 科 目	介護総合演習Ⅲ			担 当 者	藤原 久礼		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (1)

授業の目的・内容

前半は文献研究の進め方を学び、介護福祉士として求められる事例研究に必要な知識と技術を身に付ける。後半は介護実習で実施した介護過程の展開を、事例研究としてまとめ発表する。

到達目標

- ・介護実習で得た事例をもとに、事例研究としてまとめることができる。
- ・事例研究としてまとめた成果物を発表用のスライドにすることができる。
- ・発表用のスライドと原稿をもとに、時間内で発表することができる。
- ・事例研究発表の方法や手順を理解し実践することができる。

授業計画

【後期】

1. 事例研究概要報告書の作成
2. 事例研究概要 Word 作成①
3. " ② (担当教員に指導を受け、研究概要を完成する)
4. 事例研究Power Point 作成① (発表原稿の作成を含める)
5. " ② (")
6. " ③ (アニメーション、発表原稿の作成を含める)
7. " ④ (")
8. 事例研究発表リハーサル (個別リハーサル、Power Point と発表原稿の修正)
9. 事例研究発表リハーサル・修正
10. 事例研究発表リハーサル・修正 (最終Power Point と発表原稿の完成)
11. 事例研究発表①
12. " ②
13. " ③
14. " ④
15. " ⑤

事前・事後学習の内容

- ・事例研究の原稿・発表用スライド・発表原稿の作成
- ・発表のリハーサル

評価の方法・基準

・事例研究概要とPower Point の出来栄え(50%)、事例研究発表の内容(50%)で総合評価を行う
 ※授業以外の時間に担当教員の指導を受けながらPower Point と発表原稿の修正を各自行い、リハーサルと研究発表に間に合わせる。また、パソコン教室の使用状況、事例研究発表の状況によって、授業時間を同日に複数時間とることがあるので欠席には十分気を付けること。

教科書

- ・プリント配布

備考

授 業 科 目	介護実習Ⅱ-②			担 当 者	吉岡 俊昭		実務経験
履 修 方 法	実習	期 間	前期	学科・学年	介護2年	時 間 数 (単位数)	245 (6)

授業の目的・内容

- ① 25日間（200時間）の介護実習を行う。
- ② 生活支援技術が必要な高齢者や障がい者が生活している施設での実習を通して、介護支援が必要な利用者の身体・生活状況を理解し、利用者を支援する生活支援技術を学び実施する。
- ③ 利用者の個性を理解しながら、自ら考察しながら根拠に基づいた介護実践できる基礎力を身に付ける。
- ④ 対象利用者を決め、ICFの考え方にに基づき、心理・精神・身体・社会・生活面など多面的に利用者の情報の収集、アセスメント、個別援助計画の作成、実施、評価を行う。

到達目標

- ・ 利用者の状態について観察し、正しく記録できる。
- ・ 利用者の障害レベルに応じて求められる生活支援技術が実践できる。
- ・ 利用者のニーズを充足するための情報収集、アセスメント、個別援助計画の作成ができる。
- ・ 個別援助計画に沿った介護支援を実施し、評価することができる。
- ・ 処遇全般についてチームの一員として理解するとともに、医療・看護との連携の方法について学ぶ。

授業計画

【後期】

25日間（200時間）実習内容は下記の通りである。

- | | |
|---------------------------------------|---|
| (1) 実習施設の概要を理解する。 | (9) 健康管理援助（予防的介護）の仕方を学ぶ。 |
| (2) 職員の構成と職務内容を理解する。 | (10) レクリエーションを企画し、実践する。 |
| (3) 利用者の日常生活を理解する。 | (11) 指導者の監督・指導のもとに、1名の利用者を受け持ち、個別援助計画を立案・実施・評価する。 |
| (4) 介護職の役割を理解する。 | (12) カンファレンスに参加し、多職種協働の重要性を理解する。 |
| (5) 基本的な日常生活援助を理解する。 | (13) 夜間勤務を1回経験し、指導者の指示により夜間の業務内容および利用者の状態を理解する。 |
| (6) 利用者とのコミュニケーション技術を学ぶ。 | (14) 指導者の監督・指導のもとに、終末期の一部を見学する。
(機会があれば) |
| (7) 指導者の監督・指導のもとで、日課にそって日常生活援助の仕方を学ぶ。 | |
| (8) 職務内容および職員間のチームワークのあり方を学ぶ。 | |

事前・事後学習の内容

事前学習として

- ・ ICFの視点に基づいた介護過程の段階である情報収集、アセスメント、個別援助計画の意味を理解する。
- ・ 生活支援が必要な利用者の心理・精神的・身体的な特徴と、疾病や障がいについて理解する。
- ・ 配属された実習施設の理解を図る。
- ・ レクリエーションの計画作成と展開方法を学習する。

事後学習として

- ・ 実習日誌による振り返りや指導を受け、介護職員として必要な視点を養う。また、実習中の中間・最終の振り返りによって、実習を振り返り、今後の学内での学習の課題を明らかにする。

評価の方法・基準

①実習前の提出物（10%）、②実習日誌（10%）、③実習に対する姿勢（10%）、④実習での学び（10%）、⑤アセスメント・個別援助計画・評価シート（10%）、実習指導者による実習評価（50%）を本校で総合的に評価する。

教科書

- ・ 2021度 介護実習要綱

備考

授 業 科 目	認知症の理解Ⅱ			担 当 者	香川 満子		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

パーソン・センタード・ケアに基づく理論と実践方法を学ぶ。

到達目標

- ・認知症の人の認知機能の変化が、どのように生活に影響しているかを理解し、生活を続けるために環境をどのように提供するかを考えることができる。
- ・認知症のステージに応じた介護について、介護職としてのかかわり方を説明できる。
- ・認知症の人が「その人らしく」暮らすために、地域の力や家族の力を活かす方法を考えることができる。

授業計画

【前期】

1. パーソン・センタード・ケア
2. アセスメントツール センター方式
3. " ひもときシート
4. 認知症の人へのケア
5. "
6. ユマニチュード
7. バリデーション、回想法
8. 終末期の人の医療と介護
9. "
10. 環境づくり
11. "
12. 家族への支援
13. "
14. 制度、サービス
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・テキストを読み予習をする。
- ・認知症の人の体験や認知機能の変化に関する映像を観て、介護職としてのかかわり方を考える。
- ・授業初めに前回の内容を設問するので復習をしておくこと。

評価の方法・基準

- ・筆記試験 (90%)
- ・提出課題 (10%)

教科書

- ・『認知症の理解』（中央法規出版）

備考

認知ケア症専門士の資格を有し認知症ケアに携わった経験を持つ教員が、認知症の人の「その人らしさ」を大切に介護の在り方について講義をする。

授業科目	こころとからだのしくみⅢ			担当者	金光 久美		実務経験
							○
履修方法	講義	期間	通年	学科・学年	介護2年	時間数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

介護福祉士は、生活に支障が生じた場合に人々を手助けし、生活機能を遂行するうえで、その人の不足している部分を補う重要な役割を担っている。専門的な知識と技を活用してその人の力を見極めながら、安全に、かつ、快適さと安楽を考慮しつつ、最もよい方法で支援できるための根拠となるこころとからだの基本的なしくみについて理解する。

到達目標

- ・からだの各部分のしくみについて理解できる。
- ・機能の低下、障害が及ぼす日常生活行動への影響について学ぶ。
- ・異常の発見のために知っておくべき「変化」について理解し、実際の介護に役立てることができる。

授業計画

【前期】

1. 身じたくに関連した心と身体の基本知識
2. 身じたくに関連した心と身体のしくみ
3. 機能の低下・障害が及ぼす身じたくへの影響
4. //
5. 生活場面における心と身体の変化の気づき
6. 活動・移動に関連した心と身体の基本知識
7. 活動・移動に関連した心と身体のしくみ
8. //
9. 機能の低下・障害が及ぼす活動・移動への影響
10. //
11. 生活場面における心と身体の変化の気づきと医療職との連携
12. //
13. 試験対策
14. //
15. 中間まとめ

【後期】

16. 食事に関連した心と身体の基本知識
17. 食べることに関連した心と身体のしくみ
18. 機能の低下や障害が及ぼす食事への影響
19. //
20. 生活場面における心と身体の変化の気づきと医療職との連携
21. 入浴・清潔保持に関連した心と身体の基本知識
22. 清潔保持に関連した心と身体のしくみ
23. 機能の低下・障害が及ぼす入浴への影響
24. 生活場面における心と身体の変化と気づき
25. 排泄に関連した心と身体の基本知識
26. // のしくみ
27. 機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響
28. 生活場面における心と身体の変化の気づき
29. 試験対策
30. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業終了時に示す課題について、次回授業開始時に答え合わせをしていく。
- ・授業終了時に示す課題についてレポートを作成する。

評価の方法・基準

- ・学期末テスト(80%)、レポート(10%)、授業参加状況(10%)

教科書

- ・『こころとからだのしくみ』(メヂカルフレンド社)

備考

医療機関で看護師として従事した経験を持つ教員が、こころとからだの専門知識について解説する。

授業科目	医療的ケアⅡ			担当者	金光 久美		実務経験
							○
履修方法	講義	期間	通年	学科・学年	介護2年	時間数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な、基礎的知識を習得する。

到達目標

- ・呼吸のしくみと働き、いつもと違う呼吸状態について説明できる。
- ・消化器系のしくみと働き、消化器の症状について説明できる。
- ・急変、事故発生時の対応と事前対策について説明できる。
- ・医療的ケアを受ける利用者や家族の気持ちについて考えを述べるができる。
- ・喀痰吸引、経管栄養の実施の手順と留意点について述べるができる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション
2. 呼吸のしくみ、いつもと違う呼吸
3. 喀痰吸引とは
4. 人工呼吸器と吸引
5. 子どもの吸引
6. 喀痰吸引に伴うケア
7. 利用者・家族の気持ち、説明と同意
8. 感染と予防、吸引による事故
9. 急変時の対応
10. 消化器系のしくみ
11. 経管栄養とは
12. 栄養剤に関する知識、実施上の留意点
13. 子どもの経管栄養、必要なケア
14. 利用者や家族の気持ち、説明と同意
15. 中間まとめ

【後期】

16. 感染予防、経管栄養による危険
17. 急変・事故発生時の対応
18. まとめ
19. 喀痰吸引の実施手順 ①
20. " ②
21. " ③
22. " ④
23. " ⑤
24. " ⑥
25. 経管栄養の実施手順 ①
26. " ②
27. " ③
28. " ④
29. " ⑤
30. " ⑥

事前・事後学習の内容

- ・実技試験に向けて、自主練習を演習グループで行う。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(100%)

教科書

- ・『医療的ケア』（メヂカルフレンド社）

備考

医療機関で看護師として従事した経験を持つ教員が、喀痰吸引・経管栄養の基礎的知識、実施手順について解説、実演する。

授業科目	パソコンⅡ			担当者	椿 幸治		実務経験
履修方法	演習	期 間	後期	学科・学年	介護2年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

介護実習で学んだ内容を事例研究発表することで介護の現場で求められるプレゼンテーション能力と論文形式である事例研究集の作成手順を学ぶ。また、高齢者における携帯電話や SNS 関連の質問やトラブルに対応するための知識を身につける。

到達目標

- ① 論文形式の文書作成を身につける。
- ② 介護実習に適切な発表を身につける。
- ③ 携帯端末や SNS に関連する知識を深める。

授業計画

【後期】

1. 事例研究概要報告書の作成
2. 事例研究概要 Word の作成①
3. " ②
4. " ③
5. 事例研究 PowerPoint の作成①
6. " ②
7. " ③
8. " ④
9. 事例研究発表①
10. " ②
11. 事例研究集の作成①
12. " ②
13. 質疑応答
14. 高齢者における携帯端末と SNS の注意事項①
15. " ②

事前・事後学習の内容

- ① Word、PowerPoint による事例研究原稿およびプレゼンテーション資料を作成する。
- ② 事例研究発表の発表練習を行う。
- ③ 介護や高齢者に関わる事例を調べておく。

評価の方法・基準

・ Word 及び PowerPoint 事例研究原稿の出来栄え (30%)、レポート (60%)、授業態度 (10%) により評価する。

教科書

・なし

備考

授業科目	国家試験対策			担当者	豊田 美絵 藤原 久礼	実務経験	
	履修方法	演習	期 間			後期	学科・学年

授業の目的・内容

介護福祉士国家試験に向けての対策講座である。介護福祉士国家試験に必要な知識の習得を行う。

また、外部業者による模擬試験、学力評価試験など模擬試験を受け、①試験の雰囲気慣れる、②国家試験の傾向を掴む、③学生自身の弱点の克服を目指す、ことを目的とする。

到達目標

- ・介護福祉士国家試験に出題される基本的な知識の習得ができる。

授業計画

【後期】

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1. 学内模擬試験Ⅰ—① | 16. こころとからだのしくみ |
| 2. " —② | 17. 発達と老化の理解 |
| 3. " —①②の解説 | 18. 障害の理解 |
| 4. 介護の基本・介護過程 | 19. 外部模擬試験（午前）（外部会場） |
| 5. 生活支援技術① | 20. " （午後）（"） |
| 6. 学内模擬試験Ⅱ—① | 21. 外部模擬試験の解説 |
| 7. " —② | 22. 医療的ケア・総合問題 |
| 8. " —①②の解説 | 23. 学内模擬試験Ⅲ—① |
| 9. 生活支援技術② | 24. " —② |
| 10. 人間の尊厳と自立・コミュニケーション | 25. " —①②の解説 |
| 11. 社会の理解① | 26. 学力評価試験（午前） |
| 12. 外部模擬試験（午前） | 27. " （午後） |
| 13. " （午後） | 28. " の解説 |
| 14. " の解説 | 29. 学内模擬試験Ⅳ |
| 15. 社会の理解② | 30. " Ⅴ |

事前・事後学習の内容

- ・行った模擬試験問題など解説も含めて、授業終了後プリントや資料（授業で使用したもの）をファイリングし、自己学習に活用する。

評価の方法・基準

- ・出席状況(50%)、授業態度・取り組み(30%)、持参物(20%)について評価する。

教科書

- ・『2021年版 介護福祉士完全マスター問題集』（ナツメ社）
- ・『介護福祉士国家試験わかる受かる合格テキスト2021』（中央法規出版）
- ・必要資料は適宜配布する。

備考

外部業者による模擬試験や学内の模擬試験は休まず受験すること。

休んだ場合は補講として模擬試験等について受験すること。

授 業 科 目	就 職 実 務			担 当 者	金 光 久 美 寺 藤 美 喜 子		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (1)

授業の目的・内容

各福祉施設に求められる人材の性質を理解し、就職試験対策や必要書類の準備をしていく。社会に出てから必要なマナーを学ぶ。

到達目標

- ・適切な自己表現、自己主張をすることができる。
- ・希望する就職先から内定をもらうことができる。

授業計画

【通年】

1. オリエンテーション、求人票記入
2. 求人票のよみ方
3. 就職希望調査
4. 小論文・作文練習①履歴書の書き方①
5. " ②
6. " ③
7. お礼状練習①
8. " ②
9. 採用試験対策①
10. " ②
11. 就職ガイダンス参加 ①
12. " ②
13. 採用面接練習 ①
14. " ②
15. " ③

事前・事後学習の内容

- ・日々の言葉遣い、行動を意識する。
- ・福祉関連ニュースに興味を持ち、内容を理解する。
- ・いつでも試験を受けることのできる心構えを持つ。

評価の方法・基準

- ・出席状況(40%)、授業態度(50%)、提出物(10%)によって総合的に評価

教科書

- ・プリント配布

備考